

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27年 4月 20日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200791		
法人名	有限会社咲楽		
事業所名	グループホーム井口・楽々苑		
所在地	広島市西区井口4丁目15-2 電話082-276-2020		
自己評価作成日	平成27年4月8日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200791-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200791-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人医療福祉近代化プロジェクト
所在地	739-1733広島県広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成27年4月20日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気を大切にし、1人1人の主体性を尊重したケアを目指しています。共有スペースのリビングにつながるオープンデッキも開放的です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム井口・楽々苑は広島市郊外の高台にあり、晴れた日には瀬戸内海が一望できる見晴らしの良い所です。半年前に開設したばかりの新しい施設ですが、グループ内のベテラン職員が中心となり、新しい職員を指導し、開設当初から全職員が心を合わせ理念を作ることから始め、利用者一人ひとりの主体性を尊重するケアに努めておられます。開設準備段階から地域に受け入れられるよう働きかけ既に交流が始まっていることは、施設への協力をお願いするうえで良い効果が期待されます。

グループホーム井口・楽々苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	日々の言葉「松下幸之助の社訓」を朝申し送り時に唱和をしている。	ホールに理念を貼って朝礼で唱和し、松下幸之助の目めくり社訓を併せて読み心構えとしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	日常的な挨拶を通じて、地域の方と交流しており、町内の秋祭りには苑の駐車場まで神輿に来ていただいた。	町内会に加入し、回覧板もまわり、町内の秋祭りには子ども神輿が苑の駐車場まで来て下さる。ご近所の方に避難訓練に参加して頂いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症サポーター養成講座を地域の人を中心に開催する取り組みを進めていく。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議でサービス状況について報告し意見交換を行っている。御意見や御要望は会議で報告し、サービス向上に努めている。	運営推進会議は区健康長寿課・生活課等職員、町内会副会長、組長、利用者本人・家族、家族会代表、民生区会長、地域民生委員、包括支援センター職員、配食業者、ホーム統括、施設長が出席し2ヶ月に1回開催する。入居者の状況、実施事業、事業予定、事故の状況等報告し参加者からの意見や助言を運営に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市の開催する研修会に参加させて頂くことにより、サービス向上を目指している。	健康長寿課のみでなく高齢者に関わる諸担当課と密接に交流があり協力関係が保たれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	各ユニットにマニュアルを置き日々のケアに身体拘束をしないケアに取り組んでいる。マニュアルはいつでも閲覧できるようにしている。	玄関は危険防止のため施錠しているが、職員は研修し身体拘束をしないケアに努めている。各ユニットにマニュアルを置き、いつでも閲覧できる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内研修の実施、マニュアルに置きいつでも閲覧できるようにしており虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	施設内研修し、管理者は制度を理解しそれらを活用できるよう努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約等の際は利用者様の家族に十分に説明を行うと共にケアに対し意見要望を聞き説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議、面会、電話等で家族様からの意見を聞き職員に周知している。	運営推進会議や面会、電話等で意見を聞くほか家族会議を開催し自由に意見を述べて貰い運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティング等で職員の声を聴いたり気づきがあれば反映している。	ユニットごとに分かれてミーティングを行い意見をだし、主任を通して意見を集約し、サービス向上に役立っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	資格取得のため、研修に参加したり各自が向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内研修を行い担当職員が講師をして研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同業者との交流会に参加し職員研修・交流会の開催などに取組み実施につとめている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス利用前には本人様と面談し、思いや、不安等を把握し、見学、体験入居を用いられるようにしていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	契約前に聞き取り調査を行い、現状にて家族が困っている事、要望、不安に思われていることなど”理解頂けるよう説明”し、良い関係を築けるよう努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人様、家族様に相談し最適な支援を受けられるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様は我々の人生の先輩として尊重し学ばせて頂き家庭的な環境作りを始め安心して生活できるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族様と施設が共に支えている意識を持ち一緒に人間関係の構築を目指している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人、知人、いつでも来苑でき交流できる関係づくりの支援に努めている。	家族の意向を汲み、入居前の知人、ボランティア活動の友人や、教え子等訪問者をもてなす。整容は決まった美容院から来苑して貰い、外出を兼ね行きつけの美容院に行かれる方もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食事、ティータイム時は、職員も一緒に輪の中に入り会話を待つようにして利用者同士のトラブルにもならないよう対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用契約が終了しても今までの生活環境、本人御状況を情報提供し、連携を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時の持ち込みの荷物は、家族に任せている。本人様の意向は日々の関係の中で反映し取り組んでいる。	入居時に本人や家族の思いを聞き意向把握に努めている。困難な場合は、本人に寄り添い気持ちを汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人様、家族様、前ケアマネ様等から情報収集し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎朝のミーティングで一人一人の1日の生活状況を報告し職員間で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人様、家族様の希望や課題をスタッフ会議で話し合い介護計画の検討を行っている。	職員の気づき、家族の要望などその都度連携ノートや申し送り簿に記録し、スタッフ会議では会議出席者だけでなく記録を漏れなく折り返し介護計画に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	お一人お一人の様子を細かく記録し、気づき、対応等については職員間で情報共有し計画に活用できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	外出、面会等の要望に応じ、本人様、家族様の要望に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ボランティア活動を取り入れ利用者様に安心して楽しく生活して頂けるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	訪問診療により、健康管理を協力医により行っており、急変時、体調不良時も主治医と連携を取り適切な医療が受けられるよう支援している。	連携病院の訪問診療により体調管理はして頂いている。家族のサポートにより、入居前のかかりつけ医に受診される方もある。歯科はホームの近所にあり必要な方は受診し適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回訪問看護来苑時、利用者様の容態を伝え、適切な指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供を行い、連絡を取ったり面会に行ったりして状況を把握し早期退院に努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人様、家族様の意向を踏まえ主治医と職員が連携を取り、安心できるよう対応している。	重度化や終末期の在り方については、契約時に十分話し合い本人・家族の方針を確認している。最近、お亡くなりになった方の場合、主治医の密接な協力により家族と一緒に看取らせて頂いた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	利用者様の急変・事故発生時に備えて社内研修を行い対応できるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を年2回実施する予定である。(現在開所5ヶ月の為実施は1回)災害時には近隣の方に応援・協力を要請している。	避難訓練は昼間と夜間想定で実施の予定で第1回を実施した。今年度中に夜間想定の実施の予定である。職員は夜勤者以外全員参加し利用者、ご近所の方にも参加して頂き災害時の応援協力をお願いしている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	本人様の気持ちを大切に、施設内掲示等は了解を得て個人を尊重した対応に努めている。自尊心を傷つけない配慮、一人一人の尊厳を守る配慮、プライバシーの確保に努めている。	一人一人のプライバシーを尊重し、トイレも周りに気付かれないよう誘導している。言葉遣いにも注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	介護側の視点ではなく利用者様の思い、希望を表したりできるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々に応じた生活リズムにより、過ごされるよう支援している。		

グループホーム井口・楽々苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	2ヶ月に1回美容師に来苑して貰い希望に合わせたカットをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食欲や栄養を満たすだけでなくその人に喜んでいただけるよう雰囲気作りに努め、テーブル拭きやトイレ拭きも可能な限り一緒に行う。	朝、昼、夜の食前に異なった音楽をかけ口腔体操をした後で食事している。配食業者から調理済の食材を取り入れ温め配膳している。パンの日、ご飯の日、季節に沿った食事の献立を心がけ、温かいもの、冷たいもののメリハリをつけている。配食業者に運営推進会議に出席して利用者の生の声を聴いて貰っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人一人の食事の摂取量、水分摂取量を把握し、状態に応じた食事形態を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	本人様の能力に応じた口腔ケアを実施。毎食後の歯磨きの促しを支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンをつかみ、尿意のない方は時間誘導を行い、不快感のないように支援している。	オムツの方もおられるが、ほとんどはメンパンか紙パンツで、排泄パターンをつかみ誘導しトイレで排泄を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘予防の為、水分補給に心がけ、体操に取り組み予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	一人一人の希望で浴槽に浸かったり、シャワー浴をしたり、時にはレモン湯、ゆず湯にして気分転換している。	入浴は夏は週3回、冬は2回を基本にし体調の悪い日は別の日に入浴したり、レモン湯やゆず湯を楽しんで貰うこともある。冬場は脱衣室を十分に温め浴室との温度差がないよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	生活リズムに応じ休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	確実に服薬できるよう支援し薬剤師、医療機関との連携を図りアドバイスと指導を受けている。		

グループホーム井口・楽々苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人一人の役割、得意分野が発揮できるよう日々の生活を過ごしていく中で楽しんで頂けるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	実施していないが、ご家族様の協力により外出支援を行っている。	秋祭りには、神輿が苑の駐車場まで来てくれ楽しんだ。気候が良くなったら、近所を散歩したいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	実施していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人様の希望により支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関には季節感に応じた飾り付けを行い、工夫し生活感を取り入れ暮らしの場を整えている。共同空間では音楽をかけ居心地の良い空間にしている。	玄関には手芸や手作りのミニチュアハウスを飾っている。リビングは広々としており、量のスペースには大きなテレビを設置している。空調もよく静かな音楽が流れ落ち着いて過ごせる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者様同士が話をして楽しみが共有できるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人様が今までに使用されていたものを持参され落ち着いて過ごされるよう配慮している。	備え付けのチェストもあるが、ご家庭で使用されていたものを自由に持参されている。家族の写真やテレビを持ち込まれている方もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ホール内の散歩今までの生活の中で、洗濯ものたたみ、掃除などのお手伝いして頂いたり、趣味を生かした取り組みを実施している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム井口・楽々苑

作成日 平成27年4月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	44	脱水予防と便秘解消の取り組み。	個々の健康状態を把握して水分補給、食事により便秘予防を行う。1日1500ccを目標とする。	毎朝申し送りの際確認して便秘予防に努める。	3ヶ月
2	49	日常的な外出支援が少ない。	外出支援に努める。	天気の良い日は苑の庭や近所を散歩し、買い物や見学など外出行事を増やすよう努める。	6ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。